～医療生協健文会の職員のみなさま～
メロス通信
不定期便
Vol.30
2025年4月号
発行 地域福祉室

「２０２５上関原発を建てさせない山口大会」に参加

3月22日にメロスふれんどの会の仲間と「2025上関原発を建てさせない山口大集会」に参加しました。800名の参加者は、上関町で計画されている原発建設と中間貯蔵施設建設、そして国が原発推進に大転換したエネルギー基本計画に怒りと反対の声を上げました。

記念講演の青木美希さん（ジャーナリスト）は、福島原発事故から14年を経た今も16県に及ぶ広範囲な地域で野生キノコの出荷制限が続くことに象徴されるように核汚染が続く中で、生活復興が進まない現状を伝えました。

最も感動的で、「体に電気が走った」と言う人もいるのは、上関町の隣にあたる田布施町の町会議員選挙（2025年2月）で中間貯蔵施設建設反対の６名が当選し、議会の半数を占めたことです。3月にはこの6人で中間貯蔵施設建設反対決議を可決させました。6人の反対派議員を組織する中心となった小中進現町議・元県議はその経緯をダイナミックに語り「保守のまちで夢にも思っていなかったことが現実に起こった。地方から政治を変えていくことは可能だ」と力強く呼びかけました。田布施町に現れたこの波を田布施だけで終わらせず、もうすぐ市議会選挙のある柳井市など近隣自治体、更に宇部市ほかの山口県の全部の自治体、そして山口県当局、国へと広げることが今後の課題と思えました。

上関町祝島の若い清水町議からは、豊かな自然を守り続けている文化を軸にして、原発誘致に頼らない自立した地域づくりの報告がありました。同じく原発予定地に近い柳井市平郡島の井上さんからは、自治会レベルの横のつながりで本土に中間貯蔵施設アンケートを広げたユニークな取組みが語られました。

宇部協立病院から上関原発予定地までの距離を測ってみると約80km、稼働している愛媛県伊方原発までは約110kmです。実は岐波から、特に宇部中央病院など高い建物からは、長島・祝島がよく見えます。原発や中間施設建設を遠いところの話とすることなく、恒常的な運動として宇部で取り組むことの重要性を心に刻みました。

連載第3回「まち医者余聞」
野田 浩夫

健康相談のコツ3　「共感と傾聴」を超えて

初めて会う相談者の場合、相談内容に直接的に焦点を当てることはせず、なぜ今日、この機会を選んで、このことを相談したのかという背景を知ることに努めます。相談者にとっての相談の持つ意味を探ることでもあります。相談者への「共感」を無理に呼び起こすより、「意味」に焦点を当てることは大段組み切なことです。また「そうなんですね、心配なんですね」というオウム返し的な「傾聴」を脱して、より積極的な関わりを求めることにもなります。

相談を受ける側がそういう姿勢を身につけると、どんな相談にもネガティブな気持ちにならず向かい合うことができ、簡単に見える相談にも深い背景のあることを知ることができ、難しく見える相談も解決の糸口を探すことができます。これは人生の一期一会に臨む姿勢でもあり、「相談者中心の相談」実現する第一歩でもあります。

大事なことなので、前に書いたことの繰り返しになりますが、相談内容の背景を知る技法は最初の文字をとって「か・き・か・え」と呼ばれます。
か：感情、き：期待、か：解釈あるいは考え、え：影響とおぼえてください。これは人間を抽象的な存在でなく「かけがえのない個人」として捉えるときの基本的な４要素です。

では、感情はどう捉えればいいでしょうか。言葉の表面を追わず感情を探るには、やはり、適切な質問を差し挟むことが必要になります。「すごく不安になっている？」「気分が落ち込みます？」場合によっては、質問せず表情や態度から感情を察する事が必要になります。いずれにしてもどういう感情が相談の背景にあるのかは意識的に探らなければなりません。

お知らせ

5月2日にソーシャルワーク委員会と医療活動委員会の共催で第1回「ケアの倫理カンファレンス」を行ないます。詳しくは職場にお配りした案内をご覧ください。心温まる場にしていきます。